

月刊 CDC ガイドライン ニュース  
 CDC ガイドラインの最新情報をごくよりも早くお届けします！  
 編集長 / 矢野邦夫

1月号  
 第九十七回  
 最新インフルエンザ ワクチンとチメロサル

**【チメロサル】**  
 チメロサルは細菌や真菌などの微生物が増殖するのを防ぐために、複数回量のワクチン液を含んだバイアルに追加されている保存剤である。複数回の穿刺がなされるバイアルには細菌や真菌汚染が発生する危険性があり、実際に

**【ワクチンの安全性】**  
 ワクチンは、安全かつ有効であることが期待されている医薬品であり、CDC と FDA (米国食品医薬品局) はワクチンに最高レベルの安全標準を求めている。そのため、CDC と FDA はワクチンの安全性についての最新の科学的情報をつねに評価している。

**【チメロサールの安全性】**  
 三大連邦機関である CDC、FDA、NIH (米国国立衛生研究所) は、チメロサルについての公開されている研究を再調査し、ワクチンに用いても安全であることを確認している。三つの独立機関 (米国小児学会など) もまた公開されている研究をレビューし、安全性を確認した。その他の学会もインフルエンザ ワクチンでのチメロサールの使用を支持している。

2001 年以降、小児に接種されるワクチンにおいて、保存剤としてチメロサルを含有している製剤は認可されていない。CDC もまた 6 歳以下の小児にはチメロサルを含有していないか、含有しているも極微量のワクチンを推奨している (インフルエンザ ワクチンの複数回量製剤は例外)。このようない対応は予防処置として実施されたのであって、チメロサルを含有したワクチンが健康被害をもたらしたこ

とを確認したエビデンスがあるからではない。最新かつ厳格な科学的研究は、チメロサル含有のワクチンが有害であるという仮説を支持していない。

日本においては、妊婦がプレイルドシリンジ製剤が優先使用されるが、それが入手できないからといって、接種を辞退したり、接種のタイミングを逸することは適切ではない。インフルエンザ ワクチンの「有用性」は「理論的な危険性証明されていない危険性」を上回るからである。

実際、妊婦が新型インフルエンザに罹患すると死亡率が高いことが明らかとなっており、胎児に重大な障害を与える可能性もある。もし、プレイルドシリンジ製剤が入手できなければ、チメロサルは安全な保存剤であるという十分なエビデンスに基づいて、チメロサル含有ワクチンを接種することをお勧めしたい。

一時、自閉症とチメロサールの関連が疑われたことがあったが、多数の研究によって関連性がみられないことが確認されている。2001 年以降、FDA に認可された小児用の新しいワクチンにはチメロサルが含まれていないが (インフルエンザ ワクチンは例外)、自閉症の小児の数は減少していないとどこか閉症は関連、チメロサ

プロフィール

やの・くにお  
 県西部浜松医療センター 副院長 兼 感染症科長  
 「ねころんで読める CDC ガイドライン (メディカ出版)」等、CDC 関連の編・訳書多数。  
 ●今月の矢野編集長  
 2009 年は新型インフルに振り回された年であった。CDC 情報を読みまくった！すごい年だった！2010 年はどうだろうか？

